

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ネイスがらす浦和校			
○保護者評価実施期間	2025年12月10日		～	2025年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	2025年12月10日		～	2026年1月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の活動内容の共有及び振り返りを毎日行っていること。	活動内容を設定するにあたり、お子様のご様子や状態、発達段階にあわせて対応している。	設定した活動内容の振り返りを行い、安全面や内容に課題が見られた際は、修正し再設定にあたっている。
2	トレーニング内容が固定化しないように工夫している。	体操サーキットや課題活動は週毎にテーマを決めて取り組んでいる。ご利用されるお子様に合わせて内容を調整している。	店舗での活動内容の共有はもちろん、会社全体として療育案や課題設定の会議や研修会の実施、支援に関わる資格取得の推進があると、全体的な質の向上につながる。

3	サービス担当者会議や関係機関連携、幼稚園や小学校訪問に積極的に取り組んでいる。	保護者様からのご要望により実施している。他事業所でのお子様の様子、課題、支援方法などについて共有や提案をしていくことで、他事業所も含めて統一感のある支援を提供することを目指している。	児発管中心に取り組んでいるが、予定調整のうえ指導員も参加していくことで、教室全体として支援における意識の統一を目指したい。
---	---	---	---

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	教室自体が狭く、他店舗にある器具が設置されていない。	教室の広さや安全面の観点から、このような形で教室が設定されている。	教室が狭い分、サーキットを作成する際は、体操器具の配置、職員配置、視覚がないかどうかなど、様々な面において工夫をしながら作成していき、浦和校だから提供出来る楽しい活動を模索していきたい。
2	他事業所や地域のお子様との交流の機会、保護者様同士での交流の機会が少ない。	事業所が提供する活動内容や活動時間により、現状は実施が難しい。	会社として引き続き検討していく必要がある。ネイスぐらす内であれば、近隣店舗で一緒に開催されるイベントも提案したい。
3	エアートランポリンの大きさの都合上、常に支援室に設置している必要があるため、ご利用人数によっては教室を広く使えないことがある。	器具の大きさや使用するコンセントの関係で配置を変更することは難しい。	鬼ごっこやドッジボールなど、体を大きく動かす活動をする際は、1クラスのなかでチームわけをして一度に活動する人数を調整したり、フープを使用してお子様が自分の立ち位置を理解しやすいように内容を設定したりする必要がある。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ネイスぷらす浦和校		公表日		2026年 2月 9日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	運動器具の使い方やサーキットの配置は、スペースを有効に使いなおかつ安全に配慮するように心掛けている。	利用定員が6、7人になるとお子様ひとりあたり使用できる範囲が小さくなることで、お子様同士や器具との接触が起こりやすくなるため、活動における導線や安全面を配慮したレッスン内容を設定する必要がある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0	職員配置や児童の人数を見ながら支援内容を作成、対応している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1	壁掛け時計は読むことが難しいお子様も目視で分かるよう矢印のマークを取り付けてる。器具は倉庫を活用して教室はなるべく物が少なくなるように環境を整えている。支援室以外は基本ルールとしてお子様が出入しないようになっているため、職員からの死角を極力少なくするよう努めている。相談室をお子様のクールダウンを促す場所として使用することもある。	消防法により、相談室とフロアとの壁に隙間があるため、保護者様との面談内容がお子様にも漏れ聞こえてしまうのではというご心配の声をいただいた。レッスン中の面談では、フロアで音楽を流す、児童の動きが一番多くなる時間帯を面談に使用するなどして対応していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	使用した器具やおもちゃは毎日清掃するように心掛けている。また、倉庫にトランポリン以外の全ての器具を収納することで、なるべく刺激の少ない教室をつくっている。		

	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	お子様がクールダウンをするための部屋として相談室を使用することもある。運動器具を使用して視覚の遮断をすることで、個室をつくる場合もある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	0	朝礼、終礼により支援についての会議を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	年に1度、事業所についての評価アンケートを保護者様にご回答いただいております、改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	上記同様、事業所評価アンケートにお答えいただいております、日々お声がけいただいた内容は終礼や会議で報告、共有を行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	0	社内社外の監査チームによる定期的な評価等を行い、業務改善に努めている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	月に1度社内研修を行っている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	浦和校HPにより公表されている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	家庭の様子、保育園・幼稚園の様子も伺いながら計画を作成しており、教室全体で会議を行う。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	会議を実施し他職員の意見も取り入れている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	計画の内容を確認しながら、課題設定を行い、お子様の対応に当たっている。	

適切な支援の提供

15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	日々職員が支援においてお子様のご様子を見ていき、お子様の状態や状況を確認している。	
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	支援内容を共有後、その都度子どもに合わせて対応している。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	支援容作成時に職員間で相談をしたり、週間で変更するサーキットが1ヶ月で繋がるよう意識して設定する場合もある。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	お子様に様々な形で体を動かし楽しんでいただくため、職員間で相談しながら活動内容を設定し、実施後により良い形に変更することもある。固定概念に縛られず、新しい取り組みや発想も大切にしていきたい。	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	保護者様のニーズに合わせて集団や個別の目標を使い分けて設定している。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	朝礼の際に、打ち合わせを行なっている。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	毎日ご利用者様の情報を共有し、終礼を行なっている。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	会議内容は日報に記録し情報を残している。	
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0		

	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	5	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	お子様が気持ちを受容すること、その上で集団に適応していくために必要なことを学べるよう、心がけながら支援していく。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	管理者・児発管中心に参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	保護者様からご希望があれば幼稚園保育園、小学校への訪問やサービス担当者会議などに参加している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	2	保護者様のご希望があれば、学校訪問や関係機関連携により、学校でのお子様のご様子を見させていただいたり、共有をさせていただいたりする場合がある。お子様のその日の状態については、送迎いただく保護者様と情報共有をさせていただいている。	送迎を行っていないため直接的に学校とやりとりする機会は少ないため、保護者様と連携をとり、その日のお子様の状況について共通の認識のもと支援にあたるようにしていく。
関係機関や保護者との連携	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	3	保護者様のご要望により実施する場合もある。	現状事例がないことが課題だが、保護者様からのご要望を受け入れる体制を整えるため、以前ご利用いただいていた事業所や保育園などの情報も、保護者様より同意のもとお聴き取りしていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	4	保護者様からご希望があれば、事業所で連携をとり情報を共有することは可能。	事業所を卒業された事例が現状はないが、情報提供の体制を整えるため卒業後の進路について、保護者様の同意のもとお聴き取りしていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	0	関係機関連携やサービス担当者会議などにおいて、ご利用者様との関わりや支援について相談、会議をする機会がある。	

	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	5		課題として感じているが、保護者様からの様々な意見を頂いているため、会社としては必要性を含めて引き続き検討していく。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	0	5		自治体よりアナウンスがあった場合に参加することで、情報共有に努めていきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	日頃の会議にて、常にお子様やご利用者様の状況について共有し、より良い支援を提供することを目指している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	会社と相談の上、引き続き検討していく。	会社としても開催に向けて前向きに検討をすすめている。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	契約時にお時間をいただき丁寧に説明をしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	モニタリング面談などにより保護者様のご意向を伺いつつ、お子様にとってよりよい計画を作成出来るよう心掛けている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0	内容をお伝えの上、同意をいただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	保護者様からのご要望によって面談を行ったり、必要に応じて子育てサポートを実施したりしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	0	5		会社としても開催に向けて前向きに検討をすすめている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	責任者や児発管中心に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	活動記録やインスタグラム等で行事などで発信をしている。	

	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	それぞれのご利用者様に伝わりやすいようなやり取りを心掛けている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	5		現在開催予定はないが、ご要望が多くなるようであれば開催も検討していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	1年に5回訓練を実施し、年間カレンダーにスケジュールを記載している。	現状の訓練の方法だと、お子様全員に訓練の機会が与えられないため、様々なお子様に訓練の機会を提供出来るよう、月に1度は訓練や確認をする、課題活動に組み込むなどしてすすめていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	BCPの研修は全社員で行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	詳しく確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	アレルギーの症状について細かく聞いている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	契約時にお伝えしており、掲示をしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	ヒヤリハットについては細かく共有している。見守りカメラを見ながら、その都度振り返りを行っている。終礼や朝礼などで報告や対策を話し合っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	虐待の研修を会社全体で実施している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0	虐待や身体拘束における研修を会社全体で実施している。	